

香川でとれたモモ



【ねらい】

私たちの身近な香川での温暖化の現状をとらえて、地球の温暖化について関心を高めるとともに、温暖化の原因やその影響について考えさせます。

香川でとれたモモ



【資料解説】

上の写真は、夏の異常高温で果肉が変色するモモの「みつ症」を表したものです。

温暖化の影響で、「みつ症」は増加する傾向ですが、外観では見分けにくく、産地ではレーザー光線式非破壊選果機を導入し、内部品質を調査して出荷するなどの対応をとっています。

このほかにも、温暖化で開花時期が早まり、出荷時期が前進化しつつあります。暖冬で花が早く咲いてしまうと収穫が早く終わってしまい、お盆前の需要期には出荷量が不足することも懸念されます。

出典：かがわの温暖化（県環境政策課）



【参考】温暖化に対応するための農産物の品種開発

～温暖化に強い米「おいでまい」の開発～

香川県に誕生した新米、その名も「おいでまい」。「おいでまい」は讃岐弁で「いらっしゃい」の意味です。「香川で生まれた新米を多くの人に食べに来てほしい。」そんな願いを込めて名付けられました。

「おいでまい」が開発された経緯として深刻だったのが温暖化問題です。実は、香川県の米の一等米比率は東京都に次いで全国ワースト2位。県内の水稲栽培面積の47%を占める「ヒノヒカリ」は、味は良いものの、穂が出て熟れる時期に高温だと白く濁った米粒が出やすいという欠点があります。県内の水田は平野部に多いため、比較的高温になりやすく、温暖化が進むにつれ、品質の良い米を収穫することが難しくなってきました。

そこで、県は平成8年から農業試験場で、味が良く、温暖化に対応できる新品種の開発を進めてきました。平成22年に香川県の奨励品種として採用された「おいでまい」は平成25年からの本格栽培開始に向け、8市4町で試験栽培が行われ、現在試験販売が行われています。

出典：県ホームページ「LOVEさぬきさん」

【関連する各教科の学習内容】

	小学3	小学4	小学5	小学6	中学1	中学2	中学3
社会		地域の人口の生活	我が国の国土の自然などの恵みや資源 公害と国民の健康・生活環境	世界の人口の日本			【公民】 ●国政の運営と政治の役割（国政の資金） ●世界平和と人類の福祉の増大（地球環境、資源・エネルギー） ●よりよい社会を創り上げて
理科				生物と環境			●生物と環境（自然環境の調査と環境保全） ●自然環境の保全と科学技術の活用
技術・家庭(環境)							●生物の育成環境と生産条件 ●生物の育成に関する技術の適切な評価・活用
家庭							
技術・家庭(家庭)							●環境に配慮した生活の工夫 ●家庭環境と健康